

2008年ノーベル化学賞受賞記念 名古屋大学レクチャーを開催



GFPを発光させる下村博士

2008年ノーベル化学賞受賞記念 名古屋大学レクチャー「オワンクラゲからのおくりもの」が、3月26日(木)、豊田講堂において開催されました。

本レクチャーは、本学が主催する最も重要な講演会の一つであり、分野を問わず、世界的に高名な研究者の講演を広く一般市民の皆様に公開し、現代世界の最高の「知」に触れていただくために行われるもので、講演者には「名古屋大学レクチャーシップ」の称号及び表彰楯が授与されます。

4回目となった今回は、2008年ノーベル化学賞受賞の栄誉に輝いた、米国 ウッズホール海洋生物学研究所特別上席研究員である下村 脩本学特別教授を講演者に招き、現在では、医学や生命科学などの研究に欠かせない緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見までの道のりや発光生物の魅力についての講演が行われました。下村博士は、本学で理学部の研究生として2年半を過ごされ、昭和30年には、平田義正本学名誉教授（当時、教授）の下でウミホタルの研究を始め、発光物質を取り出すことに成功しました。昭和35年に本学において理学博士の学位を取得した後、同年

米国 プリンストン大学にフルブライト奨学生として留学、帰国後の昭和38年から本学理学部助教授として2年在籍されました。その後再び研究拠点を海外に移し、オワンクラゲからGFPを発見、発光機構の解明に成功し、ノーベル化学賞を受賞することとなりました。これは、平田名誉教授以来、伝統ある本学理学部で先人たちから薫陶を受けたことによるものであり、本学の自由闊達な批判精神に富む学風の中から生まれた世界に誇る研究成果の一つといえます。

当日は、はじめに平野総長のあいさつがあった後、平田名誉教授の門下生であり、本学名誉教授で現在、慶応義塾大学理工学部の上村大輔教授が、「2008年ノーベル化学賞に輝く下村 脩博士—時を超える『ひと』、『もの』、『こころ』—」と題し、下村博士の研究の源流について、生物発光の原点でもある平田研究室での心温まるエピソードを交えながら分かりやすく説明しました。

引き続き行われた名古屋大学レクチャーシップの称号及び表彰楯の授与式では、総長から下村博士に「聖人が現れ、平和で学問が尊重される世の中になる前兆」とされる「麒麟」をモチーフにデザインされた名古屋大学レクチャー



質疑応答の様子



特別教授称号授与式の様子



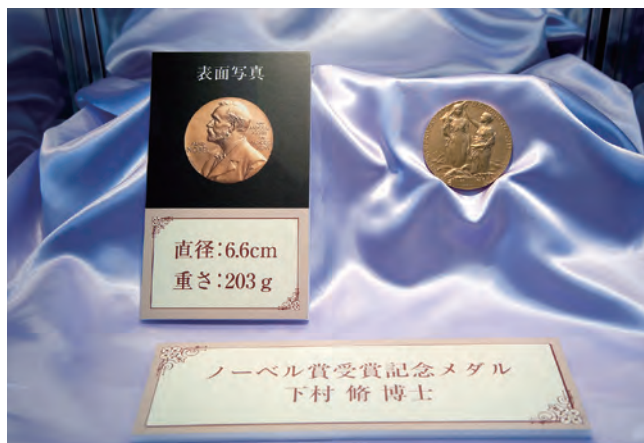
開会のあいさつをする平野総長

シップの表彰楯が贈呈されました。

レクチャーでは、下村博士が「発光生物研究の原点－名古屋大学」と題し、戦後の混乱期に長崎大学へ入学してから本学に移り、平田教授と運命的に出会い、その後、海外に活躍の拠点を移し、50年以上も生物発光の研究に一途に情熱を注いだ研究生活を振り返りました。講演の最後には、GFPが入った試験管に紫外線を当て、緑色に光る様子を再現するなど、下村博士が生涯をかけて打込んだ研究への情熱が伝わる講演となりました。

講演後に設けられた参加者からの質疑応答では、「研究の原動力は、結果を出そうとする執念である」、「夢をかなえるためには、何でも好きなことを一生懸命やり、疑問があれば解決するまで努力して欲しい」と若い世代に対しエールを送りました。また、本学の学内保育園の園児から手作りのクラゲ型メダルが贈られ、下村博士が笑顔で対応するなど、和やかな雰囲気でした。

最後に、近藤高等研究院長から閉会のあいさつがあり、大盛況のうちに終了しました。参加者からは、「素晴らしかった」、「良い刺激になった」との感想が多数寄せられ、



下村博士から借り受けたノーベル賞のメダル（レプリカ）



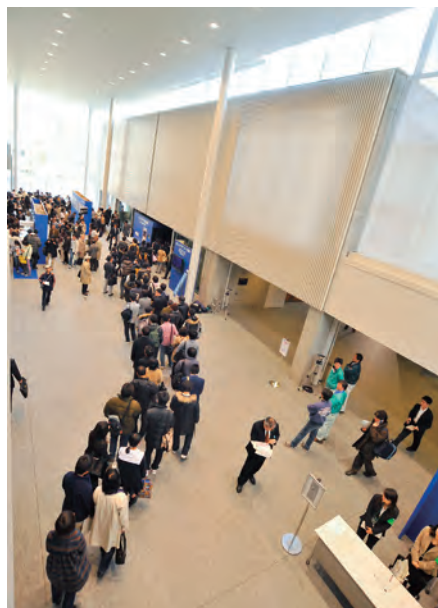
講演をする上村教授

大変有意義なものとなりました。

豊田講堂ホワイエでは、名古屋港水族館の協力により、オワンクラゲが展示され、講演会終了後、参加者が、紫外線を受けて蛍光を発しているオワンクラゲを一目見ようと長蛇の列を作っていました。

今回のレクチャーでは、メイン会場となった豊田講堂に加えて同時中継を行うサテライト会場がIB電子情報館に設けられ、中学生、高校生、一般の方々等多くの参加者が詰めかけ、本レクチャーに対する関心と期待の大きさが伺われました。

また、本レクチャーに先立ち、午前中には、下村博士への本学特別招へい教授の委嘱状交付式及び特別教授の称号授与式、ノーベル賞メダルのレプリカの受渡式、記念植樹が執り行われました。



オワンクラゲの見学に列を作る参加者